修士論文（要旨）
2012 年 1 月

大学生の組織での対人葛藤方略について

―ソーシャルスキル、対人関係敏感性、会社適応への自信との関連―

指導　山口 一　教授

心理学研究科
臨床心理学専攻
210J4002
小林　智美

目次

Ⅰ．問題と目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
Ⅱ．方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
Ⅲ．結果と考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
Ⅳ．参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅰ．問題と目的

社会人として仕事を行う上で、良好な人間関係は非常に重要なものである。しかし、多くの新入社員たちは、先輩や同僚との人間関係に悩んでいることから、社会に出るまでに対人関係スキルを身につけておくことが望ましいと言える。とりわけ「対人葛藤に対処するスキル」は、比較的自由に交友関係を展開できる学生時代とは異なり、社会人になるとますます重要になってくる。このことから、社会への参入が間近である学生が、対人葛藤場面においてどのような対処行動を用いるのかを明らかにし、対人葛藤方略分類モデルを再検討する。さらに、対処行動を選択する要因としての対人関係敏感性や、ソーシャルスキルの自己評価、会社適応への自信を調査する。このような現状を明らかにすることより「社会で役立つソーシャルスキル」を身につけるための有効なアプローチ方法の開発の礎としたい。

Ⅱ．方法

Ａ大学の 3、4 年生 860 名（25 歳までの男女）を対象に質問紙調査を行った。有効回答数は 129（有効回収率 15％）であり、内訳は男性 20 名（15.5%）、女性 109 名（84.5%）、平均年齢は 20.82 歳であった。調査に用いた質問紙は以下の通りである。

① フェイスシート：学年、年齢、性別の他、アルバイトやボランティア活動、部活動などの経験や、その活動における対人交流（頻度、人数など）について尋ねる。
② 対人葛藤方略シート：対人葛藤を引き起こす 6 つの場面においての対処方略を尋ねるもの。
③ Interpersonal Sensitivity Measure 日本語版（以下、IPSM）：対人関係敏感性を測定する尺度として、桑原ら（1999）が作成。
④ Kikuchi’s Scale of Social Skills（以下、KiSS-18）：ソーシャルスキルの自己評価を測定する尺度として、菊池（1988）が作成。
⑤ 会社適応への自信：就職後にうまくやっていけそうかどうかについて、4 項目を 4 件法で尋ねるもの。

Ⅲ．結果と考察

大学生における対人葛藤方略は、「自己志向」と「他者志向」の 2 次元によって、葛藤方略を「統合」「支配」「服従」「回避」の 4 スタイルに分類した「2 次元 4 スタイルモデル」を用いて分類する事が可能であった。しかし、「回避」については、本研究では出現度数が少なく再考の余地が残された。さらにその 4 スタイルの中に含まれる手段として「第 3 者に相談する」「他の要因を持ち出して決める」などの自己志向や他者志向を包み隠すような手段が存在するということで説明可能であった。

対人葛藤方略と、対人関係敏感性や、ソーシャルスキルの自己評価、会社適応への自信との関連を調べた結果から、男性においては、対人関係敏感性の高さが協調スキルの低さや会社適応への自信の無さと関連していることが示唆され、また、対人葛藤方略について言えば、統合スタイルを使用し、服従スタイルを使用しない事が、強調スキルの高さと関連いていることが明らかとなった。女性においては、対人関係敏感性とソーシャルスキルの自己評価と会社適応への自信とが互いに関係していることが分かり、また、対人葛藤方

略として特に服従スタイルを使う者は、対人関係の敏感さが高く、ソーシャルスキルや会社適応について自信が無いことが分かった。そして男性同様、対人葛藤方略として統合スタイルを使用し、服従スタイルを使用しない事が、自身のソーシャルスキルの自信と関連している事が明らかとなった。以上の結果を図 1、図 2 に示す。

これらの結果から、対人葛藤方略として統合スタイルを使えるようになることは、大学生､特に女子大学生にはとても有益なことであると考えられる｡自己評価の低い学生には、服従スタイルを用いてしまうような対人関係敏感性を配慮し、統合スタイルを使えるようにするためのソーシャルスキルストレーニングを提供する事で、就職後の不適応防止につながるのではないかと考える。

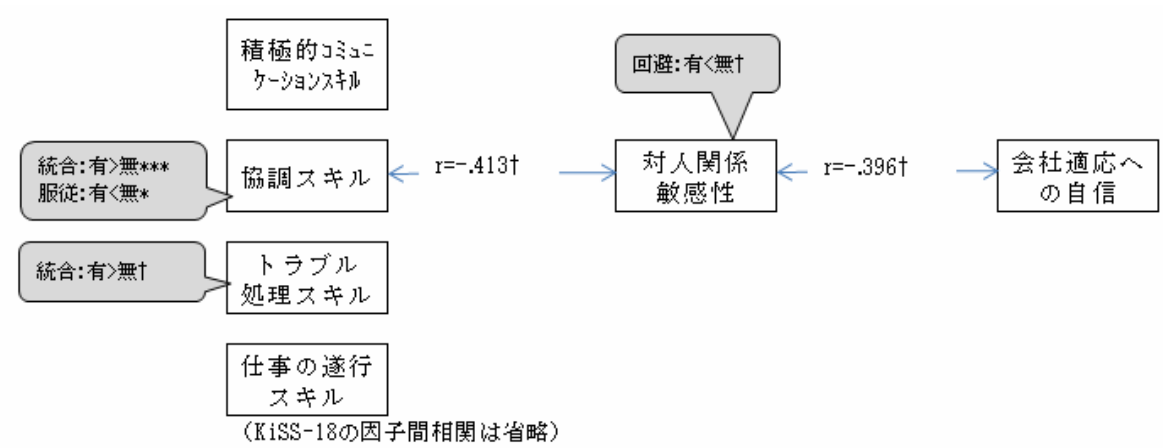

図 1　尺度間相関および対人葛藤方略との関連のまとめ（男性）

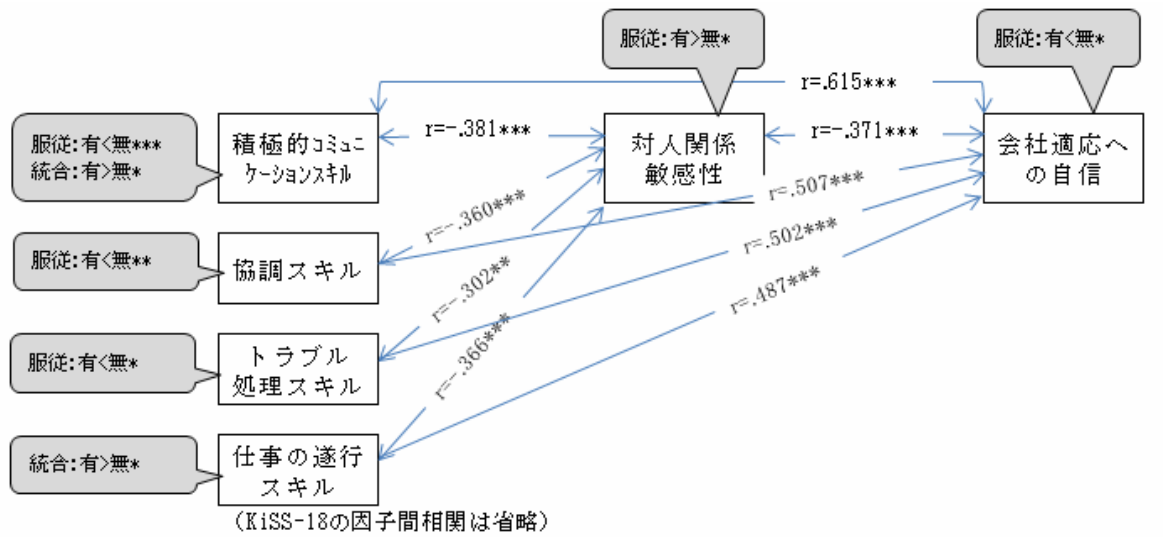

図 2　尺度間相関および対人葛藤方略との関連のまとめ（女性）

Ⅳ．参考文献

相川充 2009 新版人づきあいの技術 - ソーシャルスキルの心理学 -　サイエンス社

相川充・藤田正美・田中健吾 2007 ソーシャルスキル不足と抑うつ・孤独感・対人不安の関連 - 脆弱性モデルの再検討 -　社会心理学研究, 23, 95-103

藤森立男 1989 日常生活にみるストレスとしての対人葛藤の解決過程に関する研究　社会心理学研究, 4(2), 108-116

深田博己・山根弘敬　2003　大学生の対人葛藤解決方略に関する研究　広島大学心理学研究第, 3 号, 31-49

橋本剛 2005 ストレスと対人関係　ナカニシヤ出版

堀井俊章 2001 青年期における自意識と対人恐怖心性との関係　山形大学紀要. 教育科学, 12(4), 453-468

川畑由美 2009 人材育成の視点 今どきの新入社員を受け入れる　経営センサー, 112, 58-61

菊池章夫 1988 Social Skill 尺度の作成 （東北心理学会 42 回大会発表）東北心理学研究, 38, 67-68

菊池章夫　1993　社会的出会いの心理学　川島書店

菊池章夫　2007 社会的スキルを測る：KiSS-18 ハンドブック　川島書店

桑原秀樹ら 1999 Interpersonal Sensitivity Measure(IPSM)日本語版の作成　季刊 精神科診断学, 10, 333-341

森泉哲・高井次郎 2006 対人コミュニケーション場面における自己主張性方略の規定因 - 対人関係と自他意識の観点から -　ヒューマン・コミュニケーション研究, 34, 95-117

中津川智美 2006 大学生の対立管理方略に関する調査 - 言語的攻撃性との関係の一考察 -　浜松大学研究論集, 19(1), 1-12

中津川智美 2007 大学生の対人葛藤における回避理由　浜松大学研究論集, 20(2), 449-456

Ohbuchi,K,&Kitanaka,T.　1991 Effectiveness of power Strategies in interpersonal conflict among Japanese students. The Journal of Social Psychology, 131, 791-805

大渕憲一・福島治 1997 葛藤解決における多目標 - その規定因と方略選択に対する効果 - 心理学研究, 68(3), 155-162

小野恵里香・古川真人　2010 対人関係における感受性と認知低統制　昭和女子大学生活心理研究所紀要, 12, 115-124

Rahim,M.A. 1986 Referent role and styles of handling interpersonal conflict. The Journal of Social Psychology, 126, 79-86

翔栄クリエイト 2008 新入社員の悩みの原因調査　Business Media 誠 http://bizmakoto.jp/makoto/articles/0808/07/news025.html（2011 年 3 月現在）

田中健吾・小杉正太郎 2003 企業従業員のソーシャルスキルとソーシャルサポート・コーピング方略との関連　産業ストレス研究, 10, 195-204